

授業日時/教科・単元

動物と人間のかかわりをえがいた本を読もう / 「大造じいさんとがん」

授業者 黒見真由美 教材作成者 恒任珠美・黒見真由美

1. 児童生徒の学習の評価（授業前後の変化）

(1) 3名の児童生徒を取りあげて、同じ児童生徒の授業前と授業後の課題に対する解答がどのように変化したか、具体的な記述を引用しながら示して下さい。実技教科等で児童生徒の直接の解答が取れない場合は、活動の様子の変化について記して下さい。

児童生徒	授業前	授業後
1	きちんと正々堂々とたたかっているから	おじいさんは3場面のこともありました。おじいさんは、残雪ともっと正々堂々とたたかいたかった。だから気持ちよく放せた。お祖父さんは、残雪をおりから出す時に「元気でまた帰ってこいよ。」と思った。残雪が北へ北へと飛び立っていくときに、心にいやな気持ちはなかった。晴れ晴れとした顔で見送った。だから気持ちよく見守ることができたと思う。その翌年も、いい戦いが見られると思う。
2	また戦いたかったから	大造じいさんは、残雪と正々堂々としっかり調子よく決着がつくまで殺さないと思った。去年は、やっつけてやる、つかまえてやるという願望が強かったけど、どんどん月日が過ぎて行くうちに、たたかいたいという気持ちの方が多くなってきた。残雪は胸をうたれ、きずをおい、それでも助けて、最後ぼくはそこでも感動しました。
3	分からない	大造じいさんと残雪はライバル。大造じいさんは、堂々とたたかいたい、たぶん3場面仲間を助けようとする残雪に心を打たれた。1, 2場面では、取りたい気持ちが強かったけど、「とりたい」「とりたくない」より、残雪とまともにたたかいたくなった。そして、けがをした残雪を春までにけがを治して、また正々堂々とたたかおうと思い、春に残雪をはなした。

(2) 児童生徒の学習の成果について検討して下さい。授業前、授業後に児童生徒が答えられたことは、先生の事前の想定や「期待する解答の要素」と比べていかがでしたか。

初めの感想では、「なぜ、おじいさんは残雪をうたなかったのか。なぜ、逃がしたのか。」というところに、児童の感想が集中していた。残雪に対する大造じいさんの心情の変化を追うだけでなく、「残雪は大造じいさんにとってどんな相手と言えるか」という問いを出すことにより、「とる」という獲物に対する心情から、「正々堂々とたたかいたい相手」という対等の関係という心情に変化したことをとらえることができた。てまた、この物語の先（次の年のこと）を予想している児童がいた。

2. 児童生徒の学習の評価（学習の様子）

児童生徒の学習の様子はいかがでしたか。事前の想定と比べて、気がついたこと、気になったことをあげてください。

・恒任実践にある、「それぞれのエキスパートにあたる部分にラインを引く」という活動は、かなり有効であるように感じた。小学校の国語科の実践では、教材文そのものがエキスパート資料になることが多い。その際、「〇〇の視点について、エキスパート課題を考えるとどうか。」と課題を出すのが、「〇〇の視点からみた」部分、つまり、自分にとってのエキスパート資料となる部分が、しっかり把握されていたかどうかを考えさせられた。小学校段階では、主語、述語に目を向けて、「誰がしたこと（思ったこと）なのか。」を読み分けたり、登場人物の行動や心情と、情景描写を読み分けることそのものが大切である。実際、「それぞれのエキスパートにあたる部分にラインを引く」という活動で、初めはうまく読み分けられない児童もあったが、学習活動に組み込むことにより、読み分けた上で、課題に取り組めるようになった。

・「情景描写から心情を読む」という課題は、今年度の学力学習状況調査で、本校の課題となった点である。一つには、上記のようにどの叙述がそれにあたるかが分からないことが、その理由と思われる。また、「情景描写から心情を読む」という学習経験も不十分だったと思われる。この課題を取り入れてみると、1～3文程度の情景描写から大造じいさんの心情を読み取り、各場面でこの課題に取り組みたいと希望する児童がとても多かった。「こういうところから気持がわかるんだ」という言葉が聞かれた。本実践では、同じパターンでエキスパート課題・資料にあたる部分を扱うので、時間ごとに担当するエキスパート課題・資料にあたる部分を変え、どの課題も学習できるようにした。

・心情の変化を中心に扱ったためか、この先の両者の関係、両者に起こる出来事を予想した意見が見られた。昨年度のプランの実践では、あまり強くなかった。場面を分けて扱うことによって、児童が細やかに登場人物の心情の変化を読み取ることができたためと思う。

授業の改善点

児童生徒の学習の成果や学習の様子を踏まえ、次の3点について今回の授業の改善点を挙げて下さい。

- (1) 授業デザイン（課題の設定、エキスパートの設定、ゴールの設定、既有知識の見積もりなど）
- (2) 課題や資料の提示（発問、資料の内容、ワークシートの形式など）
- (3) その他（授業中の支援、授業の進め方など）

・恒任実践では「大造じいさんの残雪に対する心情を読み取ろう」という共通の課題を各時間に考えていくわけであるが、そこに、初めに読んだ時の児童の感想や疑問をつけ加えていくと、それぞれの授業者の教室に応じた課題となるのではないかと感じた。恒任実践でもおそらく児童の思考にそってそのような補助的な課題を示すことによって、大造じいさんの心情の変化を緻密に読み取っていったのではないかと想像される。特に後半場面になると、「心情を読み取ろう」という漠然とした課題よりも、「なぜ～」「どんな～」といった課題の方が、児童も自分の考えを明確に解答しやすかったと感じた。本実践では、「大造じいさんの残雪に対する心情を読み取ろう ～大造じいさんは残雪をつかまえようとしたのに、なぜはなしたのか～」という課題をもってすべてのジグソー学習を行った、最終の場面になると、そこに「残雪は大造じいさんにとってどんな相手と言えるか」という問いをさらにくわえることによって、より深くとらえることができたように思う。

・恒任実践にある心情をグラフに表すことも有効であった。ただ、グラフに表すのが100パーセントの中で「残雪をつかまえたいという気持ち」「つかまえたくないという気持ち」

とか、「嫌な相手」「すごい相手」という風に、相反する心情であることが理解できていなかったために、初めは自分が読みとった内容がうまく表せなかった児童も多かった。心情の読み取りが深まるにつれ、大造じいさんの中にある様々な心情をグラフの中に言葉で表現していた。

・また、恒任実践では円グラフを使っているが、本実践では児童の中から帯グラフに変える児童がでてきた。そして、帯グラフを並べて、心情の変化を読み取ったり説明したりしようとする児童がたくさんあった。第1時にあまり国語が得意でない男子児童が書いたものを「こんな風に表した人もいた」と紹介したことが有効に働いたように感じる。

・ワークシートはとてもシンプルで、ずっと同じ形式で進むので、児童にとって分かりやすいと思う。ただし、45分間でクロストーク活動まで行おうと思うと、心情が分かる文・言葉などを書き出すことに時間がかかり過ぎる。上段にあたる部分は、教科書にサイドラインを引くことで時間がかからないようにした。

・同じ学習パターンが繰り返されるので、本時にあたる部分は4回目のジグソー学習となる。読み取りが深まる一方で、3場面（おとりのがんの作戦）のあたりで、ややマンネリ化したような反応が見られた。うまく課題が提示できていなかったのかもしれない。